

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地			
大阪ベビィ動物看護専門学校		平成12年3月30日	吉内 龍策		〒 537-0025 (住所) 大阪府大阪市東成区中道3-8-15 (電話) 06-6978-3022			
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地			
学校法人宮崎学園		平成12年3月30日	宮崎 安弘		〒 537-0025 (住所) 大阪府大阪市東成区中道3-8-15 (電話) 06-6978-3022			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化教養専門課程	動物看護総合学科	平成25(2013)年度	-	平成26(2014)年度			
学科の目的	スクールモットーである「慮る」ことを基本として、企業等と連携した動物看護総合実習を含む豊富な実習・演習授業により、動物看護に関する実践的かつ専門的知識と技術、コミュニケーション力を備えた愛玩動物看護師を育成することによって、動物の健康の保持・増進と病気の予防・治療及び動物福祉、公衆衛生の向上に寄与し、人と動物の調和のとれた社会創りに貢献することを目的とする。							
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	全員が愛玩動物看護師資格の取得をめざす。							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	3,440 単位時間	1,660 単位時間	480 単位時間	1,300 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率				
360人	347人	0人	0%	6%				
就職等の状況	■卒業生数(C)		101人					
	■就職希望者数(D)		94人					
	■就職者数(E)		92人					
	■地元就職者数(F)		57人					
	■就職率(E/D)		98%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		62%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		91%					
	■進学者数		1人					
	■その他							
	(令和6年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等(令和6年度卒業生)		動物病院						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体：JAMOTE認証サービス株式会社 受審年月：平成29年2月 評価結果を掲載したホームページURL https://www.peppy.ac.jp							
当該学科のホームページURL	https://www.peppy.ac.jp							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A：単位時間による算定)							
	総授業時数		3,440 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		585 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		90 単位時間						
うち必修授業時数		2,485 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		585 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		164 単位時間						
(B：単位数による算定)								
総単位数		単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		単位						
うち必修単位数		単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		8人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		4人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		1人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		3人					
	計		16人					
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		10人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
本学では教育課程の編成と就職決定者の98%(令和6年度実績)が就職する動物病院における獣医療や動物看護に関する動向や本学の愛玩動物看護師養成教育に対する要請等を把握することを目的として「教育課程編成委員会規程」「運営会議規程」を定め、地元の社団法人大阪府獣医師会、大阪市獣医師会、動物病院、動物関連企業、動物関連団体、校長、副校長、教務委員長、事務局長等によって構成される本学運営会議において教育課程の編成に反映させ、実践的な愛玩動物看護師養成教育を推進することを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
教育課程の編成に関する事項については、教育課程編成委員会に情報を提供し、教育課程編成委員会より助言・提言を受け、運営会議で内容を協議した上で本学の教育課程の編成に反映させるものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
淡路 俊喜	大阪府獣医師会 常務理事	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	①
新山 亮	日本動物病院協会 関西圏代表ディレクター	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	①
西澤 亮治	特定非営利活動法人動物愛護社会化推進協会 事務局長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	②
高山 孝博	大阪市獣医師会 会長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	②
平尾 泰久	新日本カレンダー株式会社 常務取締役	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
川田 睦	株式会社ネオ・ベッツ 代表取締役	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
小笹 孝道	株式会社十二志会 代表取締役	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	①
宮崎 安弘	新日本カレンダー株式会社 代表取締役	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年10月30日 14:00～15:00

第2回 令和7年3月4日 15:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

2024年度カリキュラム(前・後期)についてのご意見を委員から賜り、その意見に基づき教育内容を精査したうえで2025年度カリキュラム(前・後期)へ反映している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

愛玩動物看護師を養成する専修学校として、動物看護に関する専門的知識と技術を習得するために、①動物病院の獣医師と企業・施設等のトリマーやプログラマーと講師契約を締結し、本学の教育内容や授業計画・目標、授業方法等に対する要請や意見等を反映させて教育課程を編成することによって、専門的・実践的職業教育を提供する。②学内で学んだ専門的知識と技術を動物病院において活用し、実践力とコミュニケーション力を養成し、今後の学習の課題を設定する機会として、学外の協力動物病院において全学生が「動物看護総合実習」に取り組むことを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

動物看護総合実習(企業連携実習)において、学外の協力動物病院で 院内清掃、病院受付、診療補助、臨床検査、入院動物の管理など職業社会人の業務を直接体験することにより、実践的な看護と専門職としての意識を身につける。また、実習評価項目についてはあらかじめ企業側に知らせ、実習終了後に企業の実習担当者による3段階の実習評価を提出して貰い、企業側の評価も踏まえ学内教務担当者が成績評価、単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
動物外科看護学実習	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	基本的な外科手術の流れを理解し、手術準備、麻酔モニタリング、手術助手及び周術期の動物管理を身に付ける。また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を習得する。	ナイト動物病院
コンピュータ演習Ⅰ	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	飼い主様向けへの文書作成に向けて、Wordによる基本的な文書作成技術を身に付ける。また、飼い主様向けへの文書作成に向けて、応用機能を利用し、より効果的な文書作成技術を身に付ける。	合資会社ケイアールケイ
コンピュータ演習Ⅱ	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	飼い主様への説明ツールとしてPowerPointによる資料作成技術を身に付ける。Excelの基本動作を理解し、動物病院での事務業務簡素化を図る技術を身に付ける。また、ムービーメーカーを用いた動画作成や、基礎的なPC構成等の知識習得にも取り組む。	合資会社ケイアールケイ
動物愛護・適正飼養実習B(グルーミング)	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	愛玩動物看護師として必要なグルーミングや保定を教え、基本であるベーシックを徹底的に身につけるように指導する。また、犬の状態を把握し、健康状態を見分けられるようにしていく。	ひだまり動物病院
動物看護総合実習	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	臨床現場での臨床経験からより実践的な動物看護と専門職としての意識を身に付ける。	南大阪動物医療センター、ネオペットVRセンター、他55病院

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記	
<p>獣医療と動物看護に関する専門的・実践的職業教育を提供するため、実務に関する専門的知識と技術の向上及び授業や学生に対する指導力向上を目的とした「教育研修規程」を定め、①企業等と連携した内部研修、②動物関連団体・動物看護における職能団体・動物関連企業等の主催する学術大会や研修会、セミナー等の外部研修、③業務経験に応じた初任者研修・管理職研修を効果的に組み合わせて、学校として計画的に研修等を推進することを基本方針とする。</p> <p>また、研修等の助成制度として「個人研究費規程」を定め、学校として教員の研究や学術大会、研修会、セミナー等への参加を積極的に推奨する。※平成25年度から中期研修計画を定め、その計画に沿って研修会を実施。</p>	
(2) 研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 愛玩動物看護師の今後 期間: 2024年7月30日 内容: 新日本カレンダー(株) PHP動物医療アドバイザーと連携し、全教職員、在学生を対象とし、「『愛玩動物看護師制度の今後』をテーマに知見を深め、教員の専門分野における教育の質向上に努めた。	連携企業等: 新日本カレンダー株式会社 対象: 全教職員、在学生
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: ネット上の誹謗中傷防止講座 期間: 2024年7月30日 内容: 誹謗中傷、個人情報の取扱い、フェイクニュース等をテーマに、問題発生の原因や防止のための留意点について、ワーク形式で知見を深めた。	連携企業等: 大阪府 府民文化部人権局 対象: 全教職員
(3) 研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 未定 期間: 未定 内容: 未定	連携企業等: 未定 対象: 全教職員
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 未定 期間: 未定 内容: 未定	連携企業等: 未定 対象: 全教職員

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

外部委員から受けた助言・提言を取りまとめてホームページにおいて学校関係者評価報告書として公表するとともに、委員会で受けた助言・提言を本校の教育活動と学校運営に反映させ、実践的かつ専門的な職業教育を行うことを目的に、本学運営会議において重点課題とその改善方針について協議、決定し、改善に取り組むことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理念・目的・育人人材像は定められているか 2. 学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか 3. 各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか 4. 学校における職業教育の特色は明確になっているか 5. 理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか
(2) 学校運営	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専修学校設置基準及び職業実践専門課程の認定要件に沿った適切な運営がなされているか 2. 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか 3. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか 4. 目的等に沿った事業計画が策定されているか 5. 事業計画に沿った運営方針が策定されているか 6. 人事、給与に関する制度は整備されているか 7. 専任教員は適正に配置されているか 8. 専任教員の講義・実習負担は妥当であるか 9. 教育内容の改善を図るため、教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているか 10. 業界や地域社会等からの意見の収集・分析・応答の仕組みができているか(苦情及び要請への対応を含む) 11. 教育活動に関する情報公開が適切になされているか 12. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか 13. 教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか 14. 学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順(予防処置及び是正処置)を確立しているか 15. 学生及び保護者等が不満を抱いている場合や、学校側と意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか
(3) 教育活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか 2. 自主学習を含む学習時間・学習方法として、カリキュラムの目的や要件に対応し、学生の生活時間や学習時間に配慮した設計がなされているか 3. 講義科目の名称とその内容・時間配分に関し、機構推奨のコアカリキュラムあるいはそれに準じたカリキュラムが実施されているか 4. 実習科目の名称とその内容・時間配分に関し、機構推奨のコアカリキュラムあるいはそれに準じたカリキュラムが実施されているか 5. 学習参加の前提としているスキルや要件などに不足がないかを確認するためのアンケートやヒアリングを行っているか 6. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか 7. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 8. 講義及び実習に関するシラバスは作成されているか(学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか) 9. 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか 10. シラバスには到達目標が記載されているか(Can-Doを意識した到達目標の明示) 11. 動物系関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか(その時間数はコアカリキュラムの時間数に合致しているか) 12. シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に配布されているか(あるいはホームページなどで公開されているか) 13. 実技・実習は講義と連動するなど、効果的学習に配慮されているか 14. 動物を使用する実習、実験などに関し、これらに関する倫理・動物の福祉についてマニュアルや規則が整備され、公表されているか 15. 学生や保護者に対し、成績評価・単位認定の基準、進級要件、卒業要件はきちんと提示されているか 16. 学生や保護者に対し、成績評価・単位認定の基準、進級要件、卒業要件はきちんと提示されているか 17. 愛玩動物看護師資格にもっとも重要なインターンシップについて、依頼先の獣医師等と十分なコミュニケーションをとり、その内容、評価法などを事前に決めているか 18. 職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか(第三者による授業評価を行っているか) 19. 学生の成績情報等への閲覧制限が適切に設定され、個人情報保護への配慮がされているか
(4) 学修成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の学修成果の評価に際して、育人人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか 2. 就職率の向上が図られているか 3. 資格取得率(愛玩動物看護師国家試験合格率)の向上が図られているか 4. 退学率の低減が図られているか(学生の進級率と卒業率はどうか) 5. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか(卒業生の就職後の動向を出来るだけ把握し、卒業後にも就職その他の支援を行っているか) 6. 評価目標ならびに想定される評価範囲を整理し、記述できているか 7. 学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか 8. 成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか 9. ニーズ調査結果に基づき目的(到達目標)を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか 10. 学習サービス(教育・訓練)を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか 11. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援	<ol style="list-style-type: none"> 1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか(またそれはきちんと学生や保護者に周知されているか) 2. 学生相談に関する体制は整備されているか(相談窓口が設置されているか) 3. 保護者と適切に連携しているか(保護者のニーズを把握しているか) 4. 社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか 5. 卒業生への卒後教育等の支援体制はあるか 6. 図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか 7. 奨学金制度など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 8. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか(学生の健康診断を実施しているか、また健康相談窓口は整備されているか) 9. 授業についてこられない学生に対して、リメディアル教育や他コースの紹介などの支援策を実施しているか 10. 課外活動に対する支援体制は整備されているか 11. 学生の生活環境への支援体制はあるか(学生のアパート探しなど、住環境への支援体制はあるか) 12. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか(講義室は学生数、時間割に合わせ、無理なく配備されているか) 2. 血液検査等の実習室には検査に必要な設備が備わっているか 3. 基本的な動物看護実習に用いる動物を使用できる実習室が備わっているか、また必要な数の動物が使用できるか 4. 自己学習に必要な図書室ないし図書スペースを設置しているか 5. 授業や実習にコンピュータが利用できる環境が設置されているか 6. 学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか 7. 実習室等の学校施設、設備の利用割り当て(スケジュール管理)が明確になっているか 8. 教職員に対して学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか 9. 防災に対する体制は整備されているか 10. 学内外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか 11. 外部の動物病院等へのインターンシップにおいて、学生に学ばせたい技術、知識などを事前に相談しているか、また評価基準なども相談しているか 12. 海外研修制度はあるか。またその際の学生の学生への指示、教育は十分に実施しているか
(7) 学生の受入れ募集	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生募集活動は、適正に行われているか(例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか) 2. 履歴書(学歴、所有資格など)を適切に入手し、適切な管理を行っているか 3. 学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか 4. 学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか 5. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 6. 評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか 7. 学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか 8. 教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報の取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか 9. 学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	<ol style="list-style-type: none"> 1. 財務について会計監査が適正に行われているか 2. 財務情報公開の体制整備はできているか 3. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 4. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
(9) 法令等の遵守	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか 2. 適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか(教育内容やカリキュラムを評価しているかまたその評価方法、手段、スケジュールはどのようであるか) 3. 教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況(学習環境等)を確認・検証しているか 4. 教員及び職員の職務記述書を作成し、これらを適切な間隔で見直しているか 5. 教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価し、それらの評価結果を記録しているか 6. 教職員の仕事に対する意欲や満足度について聞き取りを行っているか 7. 専門分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか(研修等の効果の評価し、文書により記録しているか) 8. 動物系関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか 9. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 10. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 11. 文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)ならびに決裁の流れを含む決裁規程(文書処理規程)が文書化されているか 12. 内部監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか 13. 内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか 14. 内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか 15. 自己点検・評価結果を公表しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか 3. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

委員会で受けた助言・提言を取りまとめ、課題を明確化した上で本校の教育活動と学校運営に反映させ、改善に取り組んでいる。委員から学生支援の項目で指摘を受けた卒業生の動向を把握すべき点については、平成29年度より、卒業生の動向調査を外部委託し、正確な事実に基づいて支援を行う体制づくりを整備している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
淡路 俊喜	大阪府獣医師会 常務理事	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	獣医療関係者
新山 亮	日本動物病院協会 関西圏代表ディレクター	令和7年4月1日～令和9年3月31日(3年)	獣医療関係者
小笠 孝道	株式会社十二志会 代表取締役	令和7年4月1日～令和9年3月31日(4年)	獣医療関係者
西澤 亮治	特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会 事務局長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(5年)	関連分野企業等関係者
高山 孝博	大阪市獣医師会 会長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(6年)	関連分野企業等関係者
平尾 泰久	新日本カレンダー株式会社 常務取締役	令和7年4月1日～令和9年3月31日(7年)	関連分野企業等関係者
川田 睦	株式会社ネオ・ベッツ 代表取締役	令和7年4月1日～令和9年3月31日(8年)	獣医療関係者
佐伯 潤	大阪府獣医師会会長、くずのは動物病院院長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(9年)	獣医療関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.peppy.ac.jp>

公表時期: 令和7年3月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

公的な教育機関として社会に対する説明責任を果たし、学校関係者との連携・協力を推進するため、「情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に沿って学校評価、事業報告書や財務状況等、学校運営に関する情報をホームページにおいて広く公表することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(学校の概要) 理念・教育目標・学校長メッセージ、育成する愛玩動物看護師像、沿革、施設・設備、アクセス、継続教育プログラム、学校組織図 地元獣医師会との連携
(2) 各学科等の教育	(設置学科・カリキュラム) 動物看護総合学科、履修要項 資格、就職実績・就職支援 (入試情報) 入試情報、入学時経済的支援制度
(3) 教職員	(教職員) 教員・担当科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(実践的職業教育) 実習・演習授業
(5) 様々な教育活動・教育環境	(学校行事) 学校行事・海外研修・国内研修
(6) 学生の生活支援	(学生支援) クラス担任制
(7) 学生納付金・修学支援	(学生納付金) 学費、進級時経済的支援制度、奨学金制度
(8) 学校の財務	(事業報告書及び財務状況) 事業報告書・貸借対照表・収支計算書・監査報告書
(9) 学校評価	(学校評価) 学校自己評価報告書 学校関係者評価報告書
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://www.peppy.ac.jp>

公表時期: 令和7年3月31日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 動物看護総合学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		生命倫理・動物福祉Ⅰ	生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。	1後	15	1	○			○	○			
2	○		生命倫理・動物福祉Ⅱ	生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。	2後	15	1	○			○	○			
3	○		動物形態機能学A	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。	1通	60	4	○			○		○	○	
4	○		動物形態機能学B	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。	1通	60	4	○			○		○		
5	○		動物繁殖学	繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を習得する。	2前	30	2	○			○		○		
6	○		動物行動学Ⅰ	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	1後	15	1	○			○	○			
7	○		動物行動学Ⅱ	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	2前	30	2	○			○	○			
8	○		動物行動学Ⅲ	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	3後	15	1	○			○	○			
9	○		動物栄養学Ⅰ	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する	1後	30	2	○			○	○			
10	○		動物栄養学Ⅱ	6大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。	2前	30	2	○			○	○			
11	○		動物栄養学Ⅲ	7大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。	3後	15	1	○			○	○			
12	○		比較動物学A(産業動物)	飼育動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼育管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体群管理について学ぶ	2前	15	1	○			○	○	○		
13	○		比較動物学B(実験動物)	飼育動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼育管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体群管理について学ぶ。	2前	15	1	○			○	○			
14	○		比較動物学C(展示動物)	飼育動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼育管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体群管理について学ぶ。	2後	15	1	○			○	○			

50	○	動物生活環境学Ⅰ	動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼育環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護主要施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。	2 後	15	1	○		○	○									
51	○	動物生活環境学Ⅱ	動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼育環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護主要施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。	3 前	15	1	○		○	○									
52	○	ペット関連産業論	ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼育のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。	2 前	30	2	○		○	○									
53	○	動物形態機能学実習Ⅰ	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	1 前	15	1		○		○	○	○							
54	○	動物形態機能学実習Ⅱ	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	2 前	15	1			○	○		○	○						
55	○	動物内科看護学実習A	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	1 通	60	4			○	○		○	○						
56	○	動物内科看護学実習B	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	3 前	15	1			○	○									○
57	○	動物内科看護学実習C	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	3 通	60	4			○	○		○	○						
58	○	動物臨床検査学実習Ⅰ	検体検査に必要な手技や臓器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。	1 通	60	4			○	○		○	○						
59	○	動物臨床検査学実習Ⅱ	検体検査に必要な手技や臓器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。	2 後	30	2			○	○		○	○						
60	○	動物外科看護学実習Ⅰ	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2 後	30	2			○	○		○	○						
61	○	動物外科看護学実習Ⅱ	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	3 前	60	4			○	○		○	○	○					
62	○	動物臨床看護学実習Ⅰ	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2 通	60	4			○	○			○						
63	○	動物臨床看護学実習Ⅱ	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	3 後	15	4			○	○			○						
64	○	動物愛護・適正飼養実習ⅠA（飼育）	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。	1 通	70	4			○	○		○							
65	○	動物愛護・適正飼養実習ⅡA（飼育）	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。	2 通	60	4			○	○			○						
66	○	動物愛護・適正飼養実習ⅢA（飼育）	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。	3 通	60	4			○	○			○						

67	○		動物愛護・適正飼養実習ⅠB（グループリング）	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。	1通	180	4			○	○	○	○	○
68	○		動物愛護・適正飼養実習ⅡB（グループリング）	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。	2通	90	2			○	○	○	○	○
69	○		動物愛護・適正飼養実習ⅢB（グループリング）	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。	3通	75	1			○	○	○	○	○
70	○		動物愛護・適正飼養実習C	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。	3後	15	1			○	○	○	○	○
71	○		動物看護総合実習Ⅰ	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割責任について理解し、実務能力を修得する。	1後	26	1			○	○	○	○	○
72	○		動物看護総合実習Ⅱ	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割責任について理解し、実務能力を修得する。	2通	74	2			○	○	○	○	○
73	○		動物看護総合実習Ⅲ	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割責任について理解し、実務能力を修得する。	3通	80	4			○	○	○	○	○
74	○		基礎学力講座	愛玩動物看護師として動物病院で働く上で必要な「読み・書き・計算」の基礎知識・能力の学び直しを行う。社会人として求められる「常に学ぶ意欲」を持つ姿勢を習慣化し、「思考力・判断力・表現力」の向上を目指す。	1通	60	4	○			○	○	○	○
75	○		ペットグッズ講座	動物看護師が指導するペット用品の上手な使い方、実際の飼い主から寄せられた質問や相談より、犬猫飼い主が抱える身近なお悩みやお困り事を知り、ペット用品を活用することで解決できる、身近な問題の解決力を身につける。	1後	15	1	○			○	○	○	○
76	○		看護技術	獣医療における診療、保護動物の看護、災害時対応などを取り上げ看護観念の視野拡大を図る。	3後	30	2			○	○	○	○	○
77	○		診療補助	修得した技術や知識の応用力や実践力を養う。これまで履修した内容に加え、シチュエーションに応じた確実な手技を検討し、実践する。	3後	15	1			○	○	○	○	○
78	○		試験対策Ⅰ	2025年度愛玩動物看護師国家試験に向けての試験対策。①愛玩動物看護師国家試験に向けて、苦手分野を克服し、能動的に自主学習ができる。②想定される試験問題・過去問題を解き、補講を行うことで理解を深め、設問に対する応用力を養う。③2026年2月に実施される愛玩動物看護師国家試験での受験生全員合格を目指す。	3通	45	4	○			○	○	○	○
79	○		試験対策Ⅱ	2025年度愛玩動物看護師国家試験に向けての試験対策。①愛玩動物看護師国家試験に向けて、苦手分野を克服し、能動的に自主学習ができる。②想定される試験問題・過去問題を解き、補講を行うことで理解を深め、設問に対する応用力を養う。③2026年3月に実施される愛玩動物看護師国家試験での受験生全員合格を目指す。	3・後	60	2	○			○	○	○	○
80	○		コンピュータ演習Ⅰ	Wordによる基本的な文書作成技術とタッチタイピングを習得する。文書作成の応用として、すべての工程を自作するオリジナル文書作成を行う。PowerPointの基礎を学び、効果的なプレゼンテーション作成技術を身につける。	2通	60	4	○			○	○	○	○
81	○		コンピュータ演習Ⅱ	プレゼンテーション作成の応用として、デザインを含むすべての工程を自作するオリジナルプレゼンテーション作成を行う。Excelの基礎を学び、データの集計・分析技術を身につける。	3後	30	2	○			○	○	○	○
82	○		院内コミュニケーションⅠ	動物病院での接遇、飼い主様対応スキルの重要性について理解する。身だしなみ、表情、言葉遣い、立ち居振る舞いなど社会人としての基本的コミュニケーションスキルや動物病院での受付（飼い主様のお迎え）業務の基礎的対応を身に付ける。	1・通	30	1	○			○	○	○	○
83	○		院内コミュニケーションⅡ	社会人としての基本的コミュニケーションスキル（身だしなみ、表情、言葉遣い、立ち居振る舞いなど）を身につける。音声表現スキルの向上、マルチタスクを身につける（メモをとりながら正確・迅速な業務処理）。動物への愛情・飼い主様への配慮が伝わる応対について考え、表現する。職域の果たす責任を認識して応対する。	2後	15	1	○			○	○	○	○

84	○	院内コミュニケーションⅢ	コミュニケーションスキルのアップ、高頻度の受付業務の知識を学び、愛玩動物看護師として即戦力となるための能力を高める。	3 前	15	1		○	○	○	○
85	○	飼い主対応	動物の福祉は飼い主あり方に多大な影響を受ける。そのため動物福祉の質の向上には飼い主の支援が不可欠である。この点で、動物看護師は対人援助職とも言える。本科目では、対人援助の基となる人の心や人の多様性、コミュニケーションについての講義・ワークなどを通じ、心理学的な視点から、飼い主と動物との関係性を理解、実践する。	3 前	15	1	○		○		○
86	○	卒業制作Ⅰ	客観的な視点、クリティカルシンキング（批判的な考え）などを養い、論理的な思考を身に付ける。様々な論文を読むために論文の構成を知る。学会などで自ら発表できるような論文を作成できるように基本を身に付ける。	2 後	30	2	○		○		○
87	○	卒業制作Ⅱ	客観的な視点、クリティカルシンキング（批判的な考え）などを養い、論理的な思考を身に付ける。様々な論文を読むために論文の構成を知る。学会などで自ら発表できるような論文を作成できるように基本を身に付ける。	3 前	30	2	○		○		○
88	○	選択授業Ⅰ	大阪ベビー動物看護専門学校における動物福祉に基づいた動物実習規定に基づき、愛玩動物看護師として職務に当たる際に活かせる知識・技術を習得し、それにかかわる獣医師、飼い主との関わり方へ応用できるようになる。	2・ 前	30	2		○	○	○	○
89	○	選択授業Ⅱ	大阪ベビー動物看護専門学校における動物福祉に基づいた動物実習規定に基づき、愛玩動物看護師として職務に当たる際に活かせる知識・技術を習得し、それにかかわる獣医師、飼い主との関わり方へ応用できるようになる。	2・ 後	30	2		○	○	○	○
90	○	選択授業Ⅲ	大阪ベビー動物看護専門学校における動物福祉に基づいた動物実習規定に基づき、愛玩動物看護師として職務に当たる際に活かせる知識・技術を習得し、それにかかわる獣医師、飼い主との関わり方へ応用できるようになる。	3・ 前	30	2		○	○	○	○
91	○	選択授業Ⅳ	大阪ベビー動物看護専門学校における動物福祉に基づいた動物実習規定に基づき、愛玩動物看護師として職務に当たる際に活かせる知識・技術を習得し、それにかかわる獣医師、飼い主との関わり方へ応用できるようになる。	3・ 後	30	2		○	○	○	○
92	○	総合演習Ⅰ	人間性や基本的な生活習慣、社会で求められる社会人基礎力と慮る精神を身につける。	1 通	105	4		○		○	
93	○	総合演習Ⅱ	人間性や基本的な生活習慣、社会で求められる社会人基礎力と慮る精神を身につける。	2 通	105	4		○		○	
94	○	総合演習Ⅲ	人間性や基本的な生活習慣、社会で求められる社会人基礎力と慮る精神を身につける。	3 通	105	4		○		○	
95	○	特別授業Ⅰ	学外及び学内での特別授業で様々な知識を学び見聞を広げ社会貢献に活かす。また、学校行事を通じて、チームワークと慮りを身に付ける。学校行事への積極的な参加と慮りでクラス交流を図り、学生生活を楽しみ、思い出を作る。	1 通	20	1	○			○	○
96	○	特別授業Ⅱ	学外及び学内での特別授業で様々な知識を学び見聞を広げ社会貢献に活かす。また、学校行事を通じて、チームワークと慮りを身に付ける。学校行事への積極的な参加と慮りでクラス交流を図り、学生生活を楽しみ、思い出を作る。	2 通	20	1	○			○	○
97	○	特別授業Ⅲ	学外及び学内での特別授業で様々な知識を学び見聞を広げ社会貢献に活かす。また、学校行事を通じて、チームワークと慮りを身に付ける。学校行事への積極的な参加と慮りでクラス交流を図り、学生生活を楽しみ、思い出を作る。	3 通	30	1	○			○	○
合計				97	科目	3440 時間 (196単位)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	①取得単位数が所定の単位数の80%以上に達していること ②動物愛護・適正飼養実習ⅢA(飼育)、総合演習Ⅲの単位を取得していること ③動物看護総合実習(インターンシップ含む)の単位を取得していること ④愛玩動物看護師国家試験受験資格に関わる科目の単位を取得していること ⑤所定の学費を完納していること	1学年の学期区分	2期
履修方法:	実習・演習・講義など (留意事項)	1学期の授業期間	14週

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。